



発行所 大阪府農業会議 大阪市中央区農人橋2-1-33 JAバンク大阪信連事務センター3階 電話 直通 06(6941)2701~2 http://www.agri-osaka.or.jp 発行人 中谷 清

# 防災農地の取り組み広がる

## 府内では10市・55ヶ所に

阪神・淡路大震災から25年の節目に、経験を活かし災害に備える取り組みがテレビ・新聞で報道された。震災を契機とし、住宅地にあるオープンスペースという農地の防災機能に着目した「防災農地」。取り組みは府内10市・55ヶ所に広がっている。平成7年11月に東京都板橋区と板橋農業協同組合(現J A東

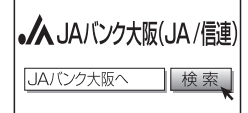
### 府内の防災農地面積

	面積 (ha)	筆・箇所数
平成 21 年	23.1	293
平成 26 年	41.5	508
平成 31 年	54.5	731

府内の防災農地面積は年々増加している

京あおば)が、農地への避難などについて協定を結び、現在では東京都内の多くの市区町村とJ Aが避難場所、仮設住宅建設用地などの協定を締結。平成23年の東日本大震災では実際に避難場所として活用された。府内では寝屋川市が最も早く、平成15年4月に「寝屋川市防災協力農地登録制度」を創設し、現在では約21・3ヶ所が登録されている。このほか、農委からの意見提出もあり、平成20年に守口市・貝塚市、23年に堺市、27年に高石市・大東市、29年に四條畷市、30年に田尻町が「防災農地」に取り組み、昨年和泉市と岸和田市が取り組みを始めた。和泉市は7月30日に「和泉市防災協力農地登録制度」を開始し、広報などを通じて周知。岸和田市では10月1日に制度を発

## 年金の受け取りはJAで



### 主な記事

- ◎農水省都市農業室が調査 2面
- ◎新聞普及で対策・中河内地区連、富田林市農委 4面
- ◎岸和田農委だより デザインを一新... 5面

## 難波葱の碑が建立

1月16日、大阪市浪速区の難波八阪神社で除幕式が行われ、難波葱の碑が建立された。難波葱発祥の地 (This area is birthplace of Namba Negi) と表記され、難波村 (Nagi) と表記され、難波村

足させ、同じく市の広報などを通じて呼びかけたところ、9筆・約80軒の申請があり、近日中に指定の見込みである。災害に備えるべく防災農地での避難訓練や炊き出しを行う自治体もあり、取り組みの広がりが期待される。(田村)



## 風速計

農水省は、30、40代の就職氷河期世代やシニア層を対象にした新たな就農対策を講ずる方針。今年度の補正予算案が成立すれば、春にも関連事業が開始される見通しという。今年度は「農業次世代人材投資事業」も話題に。研修期間に最大150万円を2年間交付する準備型と、定着に向け最長5年間同額を交付する経営開始型で構成する就農支援の柱と言える事業だが、当初予算で大幅減額。各地に波紋が広がり、多くの自治体に対応に苦慮。その後、追加配分する事態に。来年度予算は増額要求のようだ。◆農水省の調査によると、平成30年の49歳以下の若手新規就農者数は1万9290人と前年比7%減と5年ぶりに2万人を割った。人手不足で他産業でも人材獲得競争は激化している。いかに農業の魅力を高めていけばよいか、支援策が十分かどうか、今一度考えてみたい。(北川)

# 生緑下限面積引き下げを要望

## 島本町農委

山田町長(右)に意見書を手交する大西会長



島本町農業委員会(大西義雄会長)は昨年12月23日、山田紘平町長に対して、「生産緑地地区の区域の規模に関する条件の引き下げ」について、農業委員会法第38条に基づき意見提出した。同町では昨年4月に生産緑地制度を導入しており、導入にあたっては農委法に基づく意見が提出されていた。

(田村)

# 農水省都市農業室が現地調査

## 八尾市・JA中河内都市農地貸借

農林水産省都市農業室の小林課長補佐と西市民農園推進係長は1月22日、都市農地の貸借の円滑化に関する法律(以下、都市農地貸借法)を活用した事例を調査するため、八尾市内を訪れた。

JA大阪中河内、八尾市農業委員会の協力を得て、意見交換を実施。その後、都市農地貸借法で生産緑地を借り受けた農業経営者のは場を見学した。

JAの西川組合長は「生産基盤をしっかりと守っていくため、JAとしても農地

保全チームを立ち上げた。農業委員会との協力により、貸借を進めるノウハウを構築することができた」とあいさつ。

平成29年に立ち上げたJAの農地保全チームには、これまで貸し手の相談が68件、借り手44件の合計112件の相談が寄せられ、約8割が八尾市内の案件となっている。

これらの相談案件のうち、貸借に至ったのが26件。農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定は22件(2万5871平方

メートル)、都市農地貸借法によるものが4件(4299平方メートル)となっている。

農委の村田事務局長は「JAが農家の意向を把握し、市、農委との間で情報共有をするという連携が功を奏している」と話した。

意見交換の後、約1・1畝で枝豆や若ゴボウなどを中心の経営を展開する松岡孝明さんのほ場を訪問。松岡さんは、都市農地貸借法で生産緑地約1000平方メートルを借り受けている。JAが間に入ることでスムーズに借りることができたことなどを強調した。

(北川)

# 都市農地貸借 生産緑地で規模拡大

## 泉南市 川口誠さん

昨年8月に泉南市男里地区の生産緑地約29アを借り受けたのは、青ネギを栽培する川口誠さん(45)。都市農地の貸借の円滑化に関する法律により規模拡大した。

川口さんは3年前に農業機械メーカーを辞め、地元である泉南市で就農した。親は兼業でコメを作っていたが、近隣のカットねぎ業者との契約栽培に可能性を見だし、ネギ栽培に取り組むことを決意。今回の貸借で1・3畝となった。「2畝ぐらいに拡大していきたいので、条件のいい畑は借りたいと考えていた」と話す川口さん。借りた生産緑地は一団の農地の一画で道に面し、整形の農地だ。

条件のいい農地だが、所有者が高齢のため耕作されていなかった。生産緑地であるため貸借も難しかったが、同法の施行により、川口さんへと繋がった。



(田村)



「試行錯誤の日々ですが頑張ります」と川口さん



松岡さん(右から2人目)から経営状況について話を聴く小林補佐(左)

# 座談会の手法について研修

## 農業委員会等職員研修会

農業会議は、11月26日に大阪市内・大江ビルで農業委員会等職員研修会を開いた。

第1部の話し合い研修会では、茨城県東海村農委元事務局長（全国農業会議所専門相談員・地方考夢（こうむ）員研究所所長）の澤畑佳夫氏が講演した。

澤畑氏は、東海村農業委員会

在任の平成28年から30年にかけて、村内全ての農地の地権者及び耕作者の利用意向調査と集落座談会を実施。

遊休農地の解消よりもまず優良農地の保全が重要だとし、意向調査の具体的な手法について紹介。結果を地図にとりまとめ、①現状把握と地域の良いところ・課題のとりまとめ、②重

要施策を3つに絞りながら地域の方針を決定、③3つの施策に対応した分科会を形成し取り組み方法を協議、という3段階で集落座談会を行うべきだとした。

この日参加した農業委員会職員からは、「参加者の本音を引き出すには雰囲気づくりも重要であると感じた」、「農地以外としての活用を見据えている者もいるが、まちづくりの観点など関心を持ってもらえるような仕

（沼田）



東海村農委で実践した意向調査の結果を図示して説明

# おおさかもんイノベーション2019

大阪府は1月21日、「おおさかもんイノベーション2019」「農林水産業と観光の未来サミット」を大阪市内で開催した。昨年12月の「ふぞろいな魚サミット」に続くもので、府内農林漁業者、観光業者、加工・流通等の事業者、行政関係者など約100人が参加した。

はじめに、農林業に観光を取り入れた3事例が紹介された。1つ目の事例として、射手矢農園（株）の射手矢康之代表取締役が、田んぼアートと

収穫祭への取り組みを発表。「SNSやメディアの活用もあり参加者は年々増え、イベントがきっかけで、近隣農家や他産業及び他府県の方々との交流もできるようになった」と話した。



トークセッションする尾藤氏（右）と江氏（中央）

明があった。最後の事例では、合同会社能勢さとやま創造館の代表で、菊炭炭焼き師の小谷義隆氏が、炭焼きと茶の湯の体験ツアーにつ

いて発表。炭焼き体験と菊炭を使用した食事、茶の湯文化を学べる内容で、文化に触れられる点が魅力。里山体験講座も開催しており、小谷氏は、「他国では真似できない日本のものがづくりが求められるのでは」と話した。

## 観光資源としての農業の魅力

「大阪の農林水産業×観光資源の未来を探る！」と題し、やるやん！大阪農業編集長の江弘毅氏と辻調理師専門学校企画部長の尾藤環氏によるトークセッションが行われた。江氏は、府内の観光農園を紹介。幼少時のミカン狩

りの経験も話題に出し、「農業は五感で体験でき、観光として成り立つ。また、肉体で感じたものは記憶に残り、リピーターを生む可能性もある」と言及した。また、尾藤氏は、「アジア経済は成長過程にあり、観光地は足りなくなっている。海外の観光旅行者に地方へ足を運んでもらうには民泊や体験などで呼び込むことが必要。」「農業は、観光だけではなく、教育という点で違う考え方ができる。収穫体験ではなく、栽培からの体験は野菜が育つ過程を学ぶ場となる」と説明。観光資源として、農業をどう活かすべきかという話題に、参加者は耳を傾けていた。（中島）

# 年2回のパトロールを実施

## 泉大津市農委

泉大津市農業委員会（北高政夫会長）は11月26日、委員15人と事務局職員4人、市農政担当職員1人の計20人で市内全ての生産緑地の利用状況調査を実施した。



農家に近況を聞き状況の把握に努める（泉大津市）

泉大津市は全域が市街化区域であり、農地も市街地の中に点在しているところが多く、市内を5地域に分割し全員が自転車で行った。農地パトロールは、毎年5月、11月の年2回行っており、遊休農地等の発生防止に寄与している。

# 新聞普及で対策

## モニター、戸別訪問実施

### 中河内地区連、富田林市農委

中河内地区農業委員会連合会（会長・大西博東大阪市長）は昨年12月25日、臨時総会を開催。事業推進の一環として、全国農業新聞普及に向けたモニター募集に取り組むことを決定した。

富田林市農委（中谷清会長）においては、委員による普及活

動を強化。昨年12月には全国農業会議所担当職員も同農委を訪問し、普及対策について協議した。本年7月に多くの農業委員会において、新制度2回目の選任を迎えるなか、全国農業新聞の普及推進についても、事前対策が急務となっている。

また、最近では、特定生産緑地制度選択の意向調査が始まっていることに加え、営農者の高齢化に伴う営農継続の困難性や相続問題、地域内の調整等の課

# 日々の指導で周辺農家の営農意欲を守る

## 大阪狭山市農委

大阪狭山市農業委員会（上田幸男会長）では、12月11日、上田会長含む委員13人、事務局3人の計16人で、市街化調整区域内の岩室地区、東野地区の農地パトロールを実施した。

されたことから、地道に声掛けを継続することで話し合いがなされた。また、他府県在住で農地に来ない所有者もいることから、指導通知を送る際、現況の写真を添付することも検討している。

岩室地区は、以前開発の話があったものの保留となった地区。

上田会長は、「岩室地区は、一団でまとまっている農地だが、

「その時から顕著に営農意欲が失われた農家が多い」という委員らの話すとおり、日々指導するも依然改善してもらえないままの農地が多数確認された。

一方、指導の甲斐あり、保全管理されている農地も数件確認

まっている。開発の期待がまだ残っている。貸したがらない。もし貸すとなっても、樹木などを取り除き、農地として利用できる状態に戻す必要が

特に重要なのが、農業委員・農地利用最適化推進委員の皆購読や、退任委員全員の継続購読に向けた事前対策。

議会合同会議などで、新聞普及への協力を働きかけていくこととしている。

農業会議でも3月17日の第145回臨時総会終了後に開催予定の農業委員会会長・農業会

（北川）



一団となった農地で各々の状態を確認する様子（大阪狭山市）

限りある都市農地の保全のため活動している。

（泉大津市農委提供）

ある農地ばかり」とし、「東野地区においても、一定の収益を上げられる面積では無いため、なかなか借り手を捜すことも難しい。不法投棄や害虫の発生などで周りの農家の営農意欲の妨げとならないよう、委員としては、厳格な態度で指導に当たりたい」と話した。

（中島）



「農の雇用事業」研修レポート

独立を意識した研修が魅力

成長した研修生が指導者へ

(一社)箕面市農業公社

「研修を終えて栽培管理や労務管理等を担うようになり、自分を育ててくれた場所です、新しい就農者の育成に貢献でき、うれしく思う」と話すのは、(一社)箕面市農業公社の指導者、

中上直久さん(33)さん。約4.8畧の農地で、キャベツ、玉ねぎ等4種類の野菜の栽培管理を担っている。

同公社は、箕面市(農地利用集積団滑化団体)が平成26年2月に設立。高齢化などで耕作できない市内の農地を無償で借り受け、保全管理を行っている。



指導者・中上さん(左)と、研修生・安保さん(右)

また、市及び教育委員会と連携し、同公社で生産した農産物や市内農家から買い取った農産物を、学校給食で消費するシステムを構築している。

農の雇用事業は、農業を志す若者に対し、専業農家として経

長野・大阪の法人協会が交流

枚方、富田林で視察

1月23日から24日にかけて、長野県農業法人協会(大月征典会長)の会員等14人が来阪し、



都市における農業への思いを語る堅島園主(奥)

営できるよう育成することを目的として、平成27年度に「法人独立支援タイプ」で活用開始。その時の初回研修生2人のうちの1人が中上さんだった。

昨年3月、同僚の独立就農に伴い、研修終了間際に1人で生産部門を統括する立場に。「人に指示する立場になり戸惑いもあったが、研修の成果を活かせる非常に恵まれた環境だと感じた」と話す中上さん。今年度1月より、新たな研修生、

安保友貴さん(29)の指導者になった。指導では、丁寧な説明と、ある程度本人の判断に任せ、過干渉にならず見守ることに気を付けている。独立後は、自らの判断が必要になるからだ。

研修1年目では、主に栽培における基礎的な技術習得、2年目以降は作付計画や労務管理、法人経営の実務など経営を意識した研修を行う予定。「独立希望の自分と同じ志を持った先輩が教えてくれるの

で、心強く感じる。また、同公社は、労働環境や福利厚生がしっかりしており、その点を気にせずに研修に励めることはありがたい環境です」と安保さん。中上さんは「自分もいずれは独立することが目標。その時までに、より技術を磨きたいと思っている。同じ志を持つ安保さんには、自分が学んできた技術や知恵を教え、支えてあげたい」と話す。

(中島)

業のあり方を追求する中で、後に「都市農業振興基本法」の制定という形で結実した20年以上にも及んだ活動の経過や、同法に寄せる期待について説明した。

交流会では経営の課題等について、和やかな雰囲気の中で率直な意見交換が行われた。

2日目は、副会長である富田林市のナカスジファーム(中筋秀樹代表)で開催。中筋代表は、売り先や雇用の状況、経営改善の取り組み、地域農業支援などを説明した。

長野県と大阪府で営農規模・形態や消費地との距離の違いなどからくる新たな発見がある一方、農場長の育成や最低賃金の



地域農業支援の取り組みを説明する中筋代表(右)

上昇による経営の圧迫など共通の課題も多く、活発な意見交換がなされた。

(光崎・田村)

# 府優秀農業者等選賞事業

## 4経営体を表彰

府内で長年にわたり地域農業の発展に貢献してきた農業者等を表彰する「令和元年度大阪府農業生産・経営高度化優秀農業者等選賞事業」の表彰式が1月21日、大阪市内・大阪府公館で開かれ、4経営体が表彰された。

中村正治氏(茨木市)は同市農業振興団体等と直売所開設を推進。市内農業者に出荷を呼びかけ



受賞者は他の農業者の模範となる取り組みが評価された

環境整備に取り組み、雇用経営の先進的な事例である。株式会社さきしかん代表取締役の藤原真央氏(岸和田市)は、社内の分業制を進め、各部門においても利益率の向上と安定した利益の確保を実現。情報発信力も高く、販売を重視した6次産業化の先進的な事例である。(田村)

150人の参加者を得て平成20年に開設を実現。地域に不可欠な直売所となり、地産地消の推進に大きく貢献した。

馬谷秋良氏(八尾市)は派米研修生として、特に機械化による効率的な農業を研修。経験を活かし、エグマメ栽培における積極的な機械導入などで平均より10%短い作業時間と、10%多い反収を実現。産地マイスターとして産地育成にも尽力している。

ナカスジファーム代表の中筋秀樹氏(富田林市)は、農外からの新規就農者育成支援に協力。また、外国人技能実習制度を積極的に活用してお

## 農業施策意見を決定

### 第25回理事会

大阪府農業会議は1月17日、J Aバンク大阪信連事務センターで第25回理事会を開いた。第1号議案では、令和2年度大阪府農業施策に関する意見を決定。

(北川)

### 第46回常設審議委員会

大阪府農業会議は1月17日、大阪市内・J Aバンク大阪信連事務センターで第46回常設審議委員会を開いた。第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件(茨木市、能勢町、和泉市、岸和田市、堺市、太子町、河南町、富田林市、松

員取扱要綱改正の件を承認した。なお、農業施策に関する意見については、2月13日に知事への手交を予定している。

#### 【第1号議案】

件数	面積(平方メートル)
第4条	1万 294
第5条	1万4264
合計	2万4558

(農地区別別件数は、3種農地8件、2種農地24件、1種農地1件、農用地区域内農地1件)

### 大東市、豊能地区連で研修

大東市農業委員会(橋本順昭会長)は1月7日、同市役所で農業委員会研修会を開催した。農業会議からは鈴木専務理事兼事務局長が出席し、情勢報告した。

### 台風第19号義援金

農業委員会組織は昨年10月の「台風第19号」で被災された農業者等の復興を支援するため、義援金活動に取り組み、府内農委組織の最終集計金額は72万394円となった。全国では2669万1529円となり、今後被災地に贈呈される予定。ご協力ありがとうございました。

### 経営者会議役員会、法人協会合開く

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)及び大阪府農業法人協会(藤田善敬会長)は1月7日、役員会及び会合を門真市内で開催した。協議事項では、第49回総会の開催及び提出議案について協議した。総会は2月21日(金)午後、大阪市内で開催される予定。

# 難波葱を消費者にPR

## なんば駅前で700束配布

### 第3回なんば葱フェスタ

大阪府は1月16〜26日にかけて「第3回難波葱フェスタ」を開催。「食べる」「買う」「産地を知る」「楽しむ」のテーマで生産者や飲食店など113団体と協力し、難波葱をPRした。

初日の16日には難波千日前でオープニングセレモニーを開き、南部環境農林水産部長が「大阪農業の魅力の一つとして、難波葱を広く発信していきたい」とあいさつした。

その後、生産者を含む関係者約50人が南海なんば駅前に集合。「なにわの伝統野菜の難波葱です」「この辺は一面ネギ畑でした」と呼びかけ、難波葱約700束を配布した。

フェスタではこの他、難波葱畑での収穫体験やサンドイッチ、鴨なんばラーメン定食での難波葱のPRなど各種イベントを展開した。

生産者とともに難波葱を配布した難波葱の会の難波利三会長は「難波葱の碑も建ち、50年、100年と参詣者の目にとまると思うと感慨深い。これを機により多くの人に難波葱が広まってくれれば」と話した。



駅前で難波葱を手にした人であふれた

2003年、中国を発端に猛威をふるった新型コロナウイルス「SARS」、その被害をほとんど受けなかった町があると言う。それは中国有数のネギの産地・山東省章丘。人口100万ほどの地方都市だが、町の人たちは、ネギを生かじり「している」とのこと。ネギの刺激のある香りは血液の循環を良くし、免疫力を高めてくれると考えられており、章丘の人たちは葱を生かじりすることでSARS撃退につながった可能性がある。

「葎や葱をよく煮て多食」することを防疫対策として奨励している。江戸時代に貝原益軒が著した『大和本草』には、死人の耳鼻にネギを差し込んで生き返らせたという逸話が紹介されているほど、ネギには驚異のパワーがありそうだ。

「蕪や葱をよく煮て多食」する式を行った。石碑には、明治初年には難波一带には広大な葱畑が広がっていたこと、難波葱は葉の繊維が柔らかく、強いぬめりと香り、濃厚な甘みの特徴で、九条葱、千住葱などのルーツと伝わっていることなど記している。

「全国ねぎサミット」に刺激され、大阪からも葱の魅力を生信しようと呼びかけた「葱サミット2020」が大阪で集まった。集まっていた九条葱・千住葱・谷田部ねぎ・結崎ネブカにも「アメリカ」がたっぷり含まれている。葱サミットでは、各地の葱の魅力についてお話をうかがい、またミシュラン一つ星「天満・雲鶴」料理長による「5種葱盛り込み弁当」をいただき、各葱の美味しさを味わった。

# 随想

日本最古のネギの記述は737年に朝廷が発令した太政官符。都を中心に天然痘が流行した時、



難波葱の会

事務局長 難波 りんご

## 驚異のネギパワーが世界を救う!?

大阪では2020年1月下旬に「第3回 難波葱フェスタ」が開催された。「難波葱の会」では、二大イベントを企画。

「難波葱発祥の地」の記念碑を難波八阪神社さんに建立させて

「難波葱発祥の地」の記念碑を難波八阪神社さんに建立させて

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱発祥の地」の記念碑を難波八阪神社さんに建立させて

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱発祥の地」の記念碑を難波八阪神社さんに建立させて

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう

「難波葱の最大の特徴ともいえる「ヌメリ」こそ、「免疫力」を高めてくれる健康物質だ。体内に侵入してきた病原体にくっついて、これを無力化するよう